

920名(125単産・単組結集)が東京・牛込公会堂埋め尽くし、大成功12.3集会

日刊 動労千葉

81.12.6 全口版 No.102

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)四三(五)七二〇七

来春3.28へ、労竹者本隊10万の総決起つくり出し、三里塚二期決戦勝利！右翼労戦「統一」粉碎へ！

全国の労働者のみなさん。わが動労千葉は、十二月三日、多くの闘う労組・労働者の支持賛同を得て、右翼労戦「統一」粉碎・三里塚二期着工阻止・労働者集会を開催し、圧倒的成功をかちとった。さらに来春三月、三里塚二期着工阻止闘争を決戦中の決戦とし、労働者十万人の決起をもって、大爆発させ、これと結合して三里塚・反合・春闘をかちとるべく、鮮明な方針を提起した。日を同じくして、同盟中央評議会が開催された。日佐美(同盟会長)は、①「基本構想」に反対する者 ②左派のなだれこみ参加は、断固反対する等、選別排除をあきらかにした。従って、十二月十四日、「統一」準備会をめぐって、右か左かの態度を決定する時期に、われわれは十二・三集会において階級闘争を堅持する闘う方針をあきらかにしたといえる。

来年三月三里塚決戦の史上空前の大爆発をもって、右翼労戦「統一」を木端みじんに粉碎しよう



日帝・支配階級の軍事大国化に侵略戦争への総動員体制づくりが今日われわれにかけられている大反動攻撃の元凶であり、この元凶のもとに、最大の正念場が、反権力・反戦闘争の砦、三里塚闘争である。したがってわれわれも又、最大最高の闘いとして、非妥協・不屈に闘い、勝利することである。

第一に、日帝側の攻撃の環として、右翼労戦「統一」―「国鉄三五万人体制」攻撃があるということを確認に見据えることである。

第二に、右翼労戦「統一」攻撃は、右翼同盟からの揺さぶりなどという水準ではなく、日帝そのものの直接的攻撃である。こうした日帝の攻撃の手のひらの上で、労戦「統一」―「基本構想」―「五項目要求」に右往左往しているにすぎない。日帝が手のひらを握れば、粉々に粉碎されてしまふであろう。だからこそわれわれは、ただ単に反対だということではなく、敵の中核つまり背骨をたたき折る闘いを、闘わねばならない。それが三里塚を基軸とした労働運動である。

これに敵対する者は、いかなる理由を付けようが、粉碎しなくてはならない。

同盟をみよ。動労革マルをみよ。日帝の攻撃が強まれば強まるほど、その先兵としての正体を鮮明にし、武装部隊として登場してきているではないか。同盟中央評議会の結論「選別排除」動労革マルの「基本構想」反対に反対等々、これほど今日的に明らかでないものはない。これらの大反動攻撃にうちかつ



演壇ロビーまで埋め尽くした参加者は、翌年3月への総決起を誓った。(12月3日・東京牛込公会堂)

唯一の闘いこそ、十二月三日、われわれがかちとった断固たる三里塚を闘う方針であり、これがその勝利への決定的な突破口である。

十二・三に決起した、全ての人々と全国の三里塚を闘う陣形をもって、突き進み、来春三里塚三月決戦に、労働者本隊として十万人決起をかちとることである。

動労千葉は、八二年、一月旗開きを契機として、三・六労働者総決起大集会で巨大な闘いのうねりを創り出し、三・二八へと突き進む。十二・三はこの方針を、全参加者で圧倒的に確認しかちとった。

職場討議資料の小冊子できる！好評発売中！

「右翼労働戦線「統一」問題を考える」

【内容】「統一」の推進者はだれか／「基本構想」―「非公開議事録」―総評解体の危機／いかなる攻撃か／右翼労戦「統一」の先兵と化した動労「本部」革マル反動分子／いかに粉碎するのか

他に、豊富な資料、写真も含め、五四頁 (定価 三百円)

申し込みは、本部教宣部まで (一部送料百二十円)

発行 動労千葉教宣部